

自然科学のとびら

Newsletter of the Kanagawa Prefectural Museum of Natural History

Vol. 31, No. 3 神奈川県立生命の星・地球博物館 Sept. 2025



ハコネサンショウウオの 成体(雄)

Onychodactylus japonicus
(Houttuyn, 1782)

2025年5月8日撮影

まつもと りょうこ
松本 涼子(学芸員)

ハコネサンショウウオは、1776年にスウェーデンの植物学者であるツェンベリー(C. P. Thunberg)が箱根で採集した標本をもとに学名が命名されたことから、箱根は基産地として知られています。現在では、箱根山地を流れる須雲川上流に生息するハコネサンショウウオは、箱根町指定の天然記念物となっています。箱根町役場が中心となり、毎年産卵期に近い5月上旬に生息状況を確認するための調査が行われています。水温10～12℃の河川の水底の石を

そっとめくると、全長30～90 mmの幼生が姿を現します。近年、須雲川上流でシカの増加により採食圧が高くなりました。河川の脇に生える下草は食べ尽くされ、土砂が河川に流入したことから、川底に^{はま}嵌り込んだ石が多く、幼体の隠れる場所が減少しているのではないかと気がかりでした。幸い、今年度の調査では幼体に加え、河川脇のガレ場の石の下からは成体が確認されました。今後とも変化する河川と周辺環境をモニタリングする必要があります。